

印西大師 第88番 浦部・歓喜院薬師堂

1 名称 (No.088)〔手引鏡：薬師堂〕〔資料館：歓喜院〕〔行程表：歓喜院〕

2 場所 印西市浦部593 歓喜院

白幡・吉祥院から道程約1,200m

木下街道は交通量が多く歩道がないので東側の裏道の階段から行く。

GPS座標 35.82257973658202, 140.10873453184385

3 由緒 天台宗 清光山 歓喜院

浦部村大字大宮にあり 天台宗延暦寺派にして泉倉寺末なり 阿弥陀如来を本尊とす 由緒不詳 檀徒122人 境内仏堂三字あり即一.薬師堂 二.大師堂 三.観音堂 (印旛郡誌)

4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が1体

あり。台座に嘉永7年(1854年)の銘あり(印西町調査報告書追録)。

5 境内 大師堂のまわりは薬師堂と本堂がある。境内は広くはないがいつも清掃されていて、きれいになっている。

6 写真 (2021.01、2021.11、2023.11撮影)



大師堂



御大師様



御詠歌



本堂



同じ御堂の中の観音様



大師堂の隣の観音様



階段入口 (ここを上る)



北向薬師堂



銀杏の黄葉

7 情報

(1) 印西大師 第88番 薬師堂 御詠歌（泉倉寺本による）

南無薬師諸病無かれと願ひつつ 詣れる人は大窪(おおくぼ)の寺

四国八十八ヶ所 第88番 真言宗単立 医王山(いおうざん) 遍照光院 大窪寺(おおくぼじ) 写し

(2) 清光山歓喜院

浦部の大宮にある歓喜院は寛永年間（1624～43年）に権律師智円によって開かれたという。江戸時代も中期以降には泉倉寺の末寺であった。現本堂は幕末の焼失後に建てられたもので、銅板葺き入母屋造り、間口六間・奥行五間である。本尊は阿弥陀如来である。庫裏は60坪で、境内約700坪には薬師堂、観音堂、印西大師八十（八）番の小堂がある。（中略）歓喜院の名の由来は、秘仏の「歓喜仏」が安置されているからである。歓喜天は普通双身仏であるが、ここは独天仏で、頭が象の形をしているので、象頭天ともいわれ、歓喜天に対してこれを大自在天という。歓喜院の別当は大正のころまで、代々、江戸時代にこの地を領した旗本上杉氏の姫であった。上杉氏は浦部村ほか八か所を領した二千三百三十余石の高家であった。（印西町文化研究会「郷土の文化財」）

(3) 北向薬師

歓喜院の薬師如来は「関東北向薬師」の名で知られ、眼病に効験あらたかであったと伝えられている。この薬師如来は弘法大師の作と伝えられ、昔は寺の近くの薬師山（開発のため消滅）に祀られていたが、どういうわけか、その後、浦部坂下の高橋某家の井戸の中から出現した。そこで、この井戸を「胎ごもり井戸」と呼ぶ。出現した薬師如来を歓喜院境内に祀ったのは元禄四年(1693年)二月八日のことで、薬師堂はその時以来のものである。薬師堂は普通南か東向きに建てられるものであるが、ここの堂は北向きであるので「北向薬師」の名がおこったという。（印西町文化研究会「郷土の文化財」）

(4) 歓喜院

読みは「かんぎいん」かと思っていましたが天台宗の公式ホームページの寺院検索では、「歓喜院(かんきいん)」と表示されていました。